○４月「発達障害啓発週間（４／２～４／８）」「世界自閉症啓発デー（４／２）・・・外見で不自由さが伝わりにくい障害があります。みんなが暮らしやすい社会をつくりましょう。

十島村教育委員会だより　令和２年３月号

むねやかトカラ情報

南北１６０km
「心をつなぎ　気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒892-0822鹿児島市泉町13番13号
TEL　099-227-9771

３月・・・コロナウィルス感染症の影響

十島村教育委員会
教育長　有村　孝一

つい２か月前は、新たな元号令和による初めての年を迎えました。頭の中で令和がすっかり定着したこの時に、それは、姿なき侵入者として突然にやってきました。３月11日現在、世界114か国で12万人以上が感染し、死者は4700人になっています。WHOは、新型コロナウィルス感染症について「パンデミック（世界的大流行）」と表明しました。新型コロナウィルス感染症対策専門家会議より、一定程度持ちこたえているものの、同時に依然として警戒を緩めることはできないという見解が示されました。

このような中、村内の学校では３月３日からすでに３月25日までを休校とし、学校小中学校の大事な行事が縮小し、来学年度を見据えて卒業式は規模を大幅に行いました。また、学校の方簡素化して実施することができました。児童生徒が家庭訪問をとり行ったり、定期的に送られるようにも努めて通常授業を再開しました。昼食に給食を作り、給食時間だけ登校したり、図書の本を借りたりしています。また、村内では３月３日の儀式の参列者にも制限をかけるなど、これまでの学校生活とは異なる対応をとってきました。３月末の児童生徒の健康状態の管理は、自宅で検温をしてもらい、グループ学習の後線けおよびフェリー乗船前に、たてい客様に「健康申告書」を記入していただくなど、村内の感染症の予防に取り組んでいます。

これから先生方の異動の時期となります。例年多くの方々が見送りや出迎えに来てくださり、港はこだと思いますが、ありがたいしこか感ばり簡と願いとし、今のまま広せがんに迎えた形で大変理解お願いいたします。

時は春３月。村内の中学校を卒業した生徒たちは、15歳の島立ちとして島を離れなければなりません。新しい生活に不安と喜びが交錯していると思います。それぞれの進学先で自分の目標達成に向けて、大きく飛躍することを期待しています。また、先生方も次の学校へ赴任されます。トカラの地での様々な体験や温かい島の方々とのつながりを糧に頑張っていただきたいと思います。

新型コロナウィルス感染症が一刻も早く終息し、皆さんに新しい春が到来することを願ってやみません。

おめでとうございます。

○　鹿児島地区子ども会表彰　宝島子ども会
○　十島村子ども会表彰　中之島子ども会
○　十島村花いっぱいコンクール
　村長賞　口之島小・中学校
　議長賞　宝島小・中学校
　会育力賞　悪石島小・中学校
　教努力賞　中之島小・中学校
　諏訪之瀬島小・中学校
　平島小・中学校
　小宝島小・中学校

子供のうた
（一／二十四南日本新聞掲載）

なわとび
また　つっかかった
ああ　もう
早く
うしろ二じゅうとび
とべないかな
がんばれ
がんばれ
もっと
足を高く
あげて
もっと
手をはやくまわして
えいっ
とべたかな
（宝島小二年
廣瀬　優）

子供のうた
（一／二十八南日本新聞掲載）

大なわとび
大なわとびを
とんだとき
ワッとびっくり
大なわに
大なわとびを
とぶ前に
とべるかなと
わくわくわく
（中之島小二年
小原澤　洸己）

シリーズ　新聞に投稿
（令和２年１月２７日南日本新聞「若い目」掲載）
悪石島小6年　片野田　奏

「表情で伝える」楽しさ大切さ

コミュニケーション能力向上プログラムの一環で、３人の講師が来島された。表現することの楽しさを教えてもらった。

表現では「悪石島の四季」をテーマに、私たちがつくった劇を島民の方々に披露することになった。ここで初めて、表現することの楽しさを知った。私は恥ずかしがり屋で、人前で話すことが苦手だった。学習発表会では「せりふさえ覚えれば、何を伝えたいかは分かる」と思い、せりふを覚えただけで表現した。

しかし今回教わったことは、表情だけでどんな人なのか、何を伝えたいのかが分かるようにするというものだった。実際にプロの劇団の方が演じると、表情を変えるだけで全く別人になっていた。「表情を豊かにする」。それに言葉がついてくることで、相手により伝わる表現になるのだ。

普段の生活でも、授業中の発表やあいさつなど、自分を表現することがたくさんある。「表情で伝える」ということを忘れずに、人との関わりを大切にしていきたい。

シリーズ　新聞に投稿
（令和２年３月２日南日本新聞「若い目」掲載）
小宝島中2年　三尾　一惺

山海留学を続ける

山海留学に来て、１年が過ぎようとしている。小宝島に関わりは全くなく、友達とも別れたくなかったので留学を拒んできた。しかし、何度か小宝島を調べて下見に訪れると、島の素晴らしさに気付き留学を決意した。

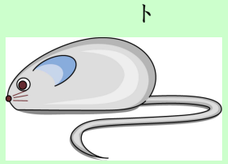
釣りが好きで、大きな魚を釣る光景を思い浮かべる。ほとんで釣れない日が続く。そんなときにも諦めずに、辛抱強く待つ。釣果が出る。

勉強も同じだ。難しい問題に出合っても投げ出さずに、解けるまであらゆる方法を試してみる。解けるようになる。どうしても解けないときには、先生にヒントをもらう。そこから、自分で前へ前へと考えるようになった。

壁にぶつかったときに、諦めずに努力を惜しまないこと。分からないときには気持ちをさらけ出して前に進むことを学んだ。４月以降も十島に残り、来年の受験で都立高校の合格を目指す。下級生の助けにもなれる人になりたい。

子供のうた
（二／二十五南日本新聞掲載）

助験ん気を　考トう法も　待く思　き下で達て
モルモット
ふわふわ
かわいい
モルモット
くるくる
まわって
くろしろ
ちゃいろ
キラキラ
かわいい
モルモット
まるまる
おめめは
キラキラキラ
（中之島小一年
堀之内　奏音）



【口之島小・中学校からのメッセージ】
養護教諭　大堂　厚美

～６０年前を引き継いで～

「私が口之島小学校に在籍していた６０年前は，水道がなくカワに水汲みに行っていました。電気も時間制でした。船と陸は，はしけで繋げていたので乗り降りが大変でした。」

それは，令和元年１２月開催の十島ファミリー劇場「口之島ふれあいコンサート」の演奏者が話された思い出話でした。その話に会場の観客が，どよめきました。なぜなら，６０年前の同級生や上級生だった方々が観客だったからです。

私は，今，６０年後の口之島小・中学校で働いています。現在の口之島には，日用品や食料品が買えたり一注文できる店があります。車が通れる道路・インターネット・電気・水道も整備されており，過ごしやすい環境で働けています。

私が口之島に赴任した当時，どの島の養護教諭も，初めて行う本格的な給食業務と保健業務との両立に困っていたため，「何とかしなければいけない！」という強い思いで仕上げたのが「十島村定期健康診断マニュアル」です。

マニュアルの活用で，平成３０年度以降は見通しを立てた定期健康診断ができるようになり，給食業務に集中できるようになったと聞いています。助け合いの心が６０年後も引き継がれていることを願っています。

『教職員仲間であるあなた』への私からのメッセージ

十島村でしか経験できない仕事があり，十島村に住んで働かなければ気付けないことが多々あります。しかし，十島村で働けたことに感謝する日が必ずくるはずです。

シリーズ・・・十島村で学ぶ
平島小学校　５年　古里　樹

ぼくの恩返し

「もうすぐ３月」です。早いもので，平島に来て，１年が経とうとしています。昨年の４月から平島で山海留学生としての生活が，始まりました。思い出すと，不安ときん張でいっぱいの４月だったことを覚えています。

フェリーが平島に着き，下り立った時に「坂しか見え ない。」と思いました。着くまでは，平島という名前なので，「きっと，たいらな島なんだろう。」と思っていたので，港から走るつもりでした。走れずに少し残念でした。

平島りょうでの生活は，とても毎日が楽しく，不安ときん張は，いっぺんに吹き飛んでしまいました。ぼくは，一番年下なので，中学生や６年生から，親切に何でも教えてもらっています。いっぺんに６人の姉や兄ができた感じでうれしかったです。今でも勉強や活動で分からないところを教えてくれます。

部屋も一人部屋です。自分でかたづけなければなりませんが，みんながそばにいるので安心です。以前住んでいた町の友達にも，自まんしたいことの一つです。

島民のみなさんも，いつも声をかけてくださり，親切にしてくださいます。大きな声であいさつをすると，「元気でいいね。」とほめてくださいます。

いよいよ６年生です。小学校最高学年になります。島民の方々に成長した姿を見せることが，島民の方々への恩返しだと思っています。学校の友達と島民の方々から，「立派だねえ。」と言っていただけるように，少しずつでも恩返しができるようになりたいです。